

What's *Saburo Teshigawara*?

勅使川原三郎とは？

profile

クラシックバレエを学んだ後、1981年より独自の創作活動を開始。85年、宮田佳と共にKARASを結成し、既存のダンスの枠組みではとらえられない新しい表現を追及。舞台美術、照明デザイン、衣装、音楽構成も自ら手掛ける。光・音・空気・身体によって空間を質的に変化させ創造される、かつてない独創的な舞台作品は、ダンス界にとどまらず、あらゆるアートシーンに衝撃を与えるとともに高く評価され、国内のみならず欧米他、諸外国の主要なフェスティバルおよび劇場の招きにより多数の公演を行う。自身のソロ作品、KARASとのグループ作品創作の他にも、パリ・オペラ座バレエ団などヨーロッパの一流バレエ団からの依頼で作品を創作。日本人振付家として初めての快挙であり、世界的先駆者として位置付けられている。



History~以前の作品



Miroku~ミロク (2007年6月)

作品タイトルは、稲垣足穂の自伝的小説「弥勒」から発想された。作中の足穂の言葉に共感した勅使川原が、自らの身体を足穂の言葉の世界と向き合わせて「美の新しい形」を追求した勅使川原三郎ソロ最新作。2007年12月に新国立劇場(東京)にて初演。2008年6月モンペリエ・ダンスフェスティバル(フランス)にて公演。現在世界ツアー中。

review

●勅使川原三郎「ミロク」公演評
(読売新聞2007年12月26日(火)
夕刊 より抜粋)

終盤、吹雪のように白いものが舞いはじめ、突然舞台奥の壁が倒れてぽっかり闇が現れ、宇宙空間への扉が開かれたように思われたとき、横の壁に寄り添うように座っていたダンサーが静かに倒れた。...(略) 勅使川原は、身体の質感を巧みに変化させて、肉体を消して魂の踊りへと至る、ダンスの究極の形に迫りつつ、人間精神の壮大な叙事詩を創り上げたのだった。自身の創案の色彩も、格別の美しさだった。
【村山久美子・舞踊評論家】

History~以前の作品



Raj Packet II (2002年12月)

勅使川原三郎、KARASのダンサーに加えて、動物達が舞台に現れ、英国のロックバンドSANDが織り成す迫力のライブサウンドが牧歌的な緑の舞台に流れる。「Raj Packet-everything but Ravi」は日本舞踊批評家協会賞、ニムラ舞踊賞を、「Raj Packet II」は朝日舞台芸術賞を受賞。

review

●RAJ PACKET II 公演評 (朝日新聞 2002年12月18日(水)夕刊 より抜粋)

...(略)開幕前、フロントステージで白ウサギが十匹群れている。幕が開くと、舞台奥でビートのきいた生演奏。右端では男がわめく。軍隊のの号令を思わせる怒号だ。争乱とハイテクの嵐がすさぶ現代の世相を表現しているのだろうが...(略)四隅の杭には、手前にウシ、奥にヤギがつながれている。つづく場面はどれも身近で懐かしいものに非現実的な感触が入り交じっている。回し一つの力士が美声のアリアを歌うかと思えば、お笑いコントのような3人のやり取りが際限なく繰り返されて奇妙に夢幻的になったりする。...(略)

だが圧巻はやはり終幕の勅使川原の長いソロだ。随所に鋭角的なラインを見せながら決して途切れず、あくまで滑らか。激しさの中に澄み切った静謐を感じさせる。身体の動きであたりの空気の質を変え、清浄でのどかな永遠を描き上げた。

【佐々木涼子・舞踊評論家】

review

●「ガラスノ牙」公演評 (朝日新聞 2006年12月25日(月)夕刊 より抜粋)

身体だけが孤立して存在するということとはあり得ない。それが佇む光や音や物との関係性の中で、そこにあるのだ。勅使川原作品の魅力は、身体のあり方ばかりでなく、それを包む空間の暗がりにもパフォーマンスの力が息づいていることである。...(略)

...(略)ありきたりの物語や情感を一切介在させない舞台であるからこそ、控え目でありながら真の緊張感に満ちた時空が持続した。

【石井達朗・舞踊評論家】

History~以前の作品



Glass Tooth~ガラスノ牙 (2006年12月)

ガラス、躊躇、囁きという3つの要素を元に創作された作品。それらの要素を内感し、変化していく身体の在りようを追求する。「ガラスの破片がつくる無数の光の反射は時間の破片」(勅使川原三郎)---舞台上の広範囲に渡る破碎したガラスの集積の上で踊るシーンでは、勅使川原三郎と佐東利穂子によるデュエットがガラスと身体の質感を表出する。無限に乱反射するガラスの上で、身体の深遠な動きは静寂な時と空間を刻む。その場で発せられる囁きによって身体の動きは増幅し、観る者の意識、感覚をも触発する。躊躇は身体が内包する感性と運動に反映し、複雑に拮抗、融和する。最後の勅使川原のソロが唯一無二の存在感で空間を満たす。2006年12月に新国立劇場(東京)にて創作、初演。2007年1月2日にヨーロッパ・ツアー、パリのシャイヨー劇場他フランス、スペイン各地にて上演。